

奈良
国立博物館
だより

平成13年1・2・3月

特別陳列

矢田寺の仏像

東新館

1月4日(木)～2月4日(日)

特別陳列

東大寺二月堂とお水取り

東新館

2月20日(火)～3月18日(日)

特別出陳

唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館

1月4日(木)～

特別出陳

薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館

1月4日(木)～

平常展

仏教美術の名品

本館・西新館

1月4日(木)～

〔写真解説〕

重要文化財 十一面観音立像（金剛山寺）

金剛山寺の元の本尊と考えられる。像の幹部は足下の台座蓮肉部までをキリの一材から彫り出す。下半身には天然のウロ（空洞）がある。左肩からかける条帛は乾漆を盛り上げて造っている。頭上面のうち、五面のみが当初のもの。しなやかな身のこなしが美しい。

（「矢田寺の仏像」展より）



特別陳列

矢田寺の仏像

東新館 1月4日(木)～2月4日(日)

奈良盆地の北西部に位置する矢田丘陵には、矢田寺の通称で親しまれ、また「あじさい寺」として知られる矢田山金剛山寺があります。

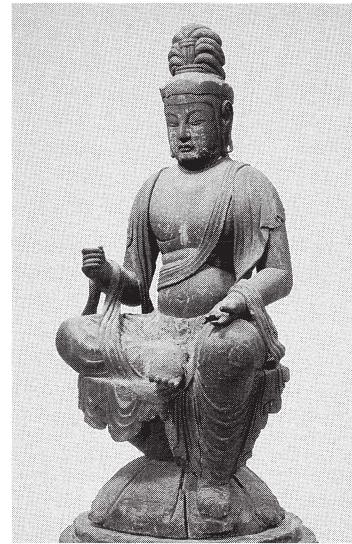
縁起によると、閻魔王の招きをうけた満米上人が地獄で出会った地蔵菩薩の姿を彫刻したのが当寺の本尊である矢田地蔵とされ、中世以降、盛んな地蔵信仰に支えられて多くの参拝者を集めました。

当寺にはこの有名な地蔵菩薩像や元の本尊とみられる十一面観音像をはじめ、重要文化財に指定された優れた彫像が六軸伝来しています。

それらの多くはふだん一般に公開されていませんが、このたび金剛山寺本堂の解体修理にともない、安置されていた諸尊像を当館にお預かりさせていただいたのを機縁に、特別陳列「矢田寺の仏像」を開催します。

出品作品は上の六軸のほか、このほど保存修理の完了した新発見の二天王像と、山内の塔頭北僧坊の虚空蔵菩薩像をくわえた八件九軸で、いずれも仏教美術史研究上、看過できない重要な作例ばかりです。

本展を通じて、仏教彫刻の醍醐味を味わっていただくことができれば、まことに幸いです。



◎木造虚空蔵菩薩坐像（北僧坊）



◎東大寺二月堂本尊光背
(部分) (東大寺)

特別陳列

東大寺二月堂とお水取り

東新館 2月20日(火)～3月18日(日)

奈良に春を呼ぶ行事として名高い「お水取り」(修二会)は、東大寺二月堂において十一面観音に悔過(仏に過ちを悔いること)をする行法で、今年は千二百五十回目になります。この「お水取り」が行われる時期に合わせ、東大寺二月堂とお水取りに関連する彫刻・絵画・書跡・工芸品・考古遺品などを展示します。

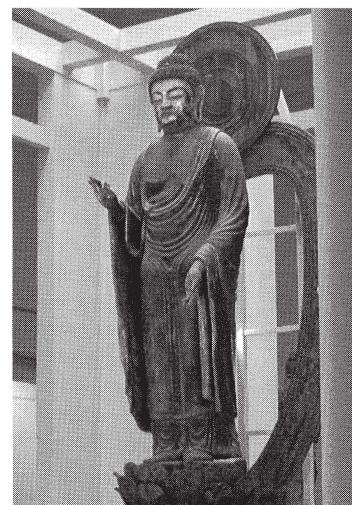
平常展 仏教美術の名品

本館・西新館 1月4日(木)～

平常展は、本館と西新館において陳列を行なっています。

明治の洋風建築としても知られる本館では、彫刻作品を陳列しています。飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、及びその源流ともいべきガンダーラや中国などの諸作品を幅広く紹介しています。

西新館では、仏教美術の名品を絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に展示しています。平常展とは言うものの、多数の国宝・重要文化財を含む名品が百点以上含まれており、随時展示替えも行なっています。仏教美術の名品をじっくりと御堪能ください。



◎薬師如来立像 (唐招提寺)

特別出陳

唐招提寺金堂 国宝木心乾漆薬師如来立像

本館 1月4日(木)～

唐招提寺金堂の修理にともない、唐招提寺金堂の薬師如来立像（国宝）を当館で展観しています。奈良時代末～平安時代初頭の傑作として名高い仏像です。昭和41年の修理の際に、左の掌から和同開珎・萬年通寶・隆平永寶の3枚の銅錢が発見されていることでも有名です。みごとな木心乾漆の巨像は、大きな本館展示室も狭くみえるぐらいです。是非、間近にご鑑賞ください。

特別出陳

薬師寺講堂 重要文化財銅造薬師三尊像

西新館 1月4日(木)～

薬師寺講堂の修理にともない、丈六の薬師三尊像を当館にて展示しています。この薬師三尊像は、近年の修理によってかつての威容を取り戻しています。ごゆっくりと、ご観覧ください。

特別陳列 「矢田寺の仏像」 東新館

◎木造十一面觀音立像、木造二天王立像、◎木造地藏菩薩立像〔本尊〕、◎木造地藏菩薩立像〔前立〕、◎木造阿彌陀如來坐像、◎木造閻魔王倚像、◎木造司命〔伝司錄〕坐像(以上金剛山寺)、◎木造虛空藏菩薩坐像(北僧坊)

特別陳列 「東大寺二月堂とお水取り」 東新館

◎二月堂本尊光背、二月堂本尊光背裏面拓本、二月堂本尊天衣片(以上東大寺)、◎覺禪鈔(十一面觀音法)(西南院)、◎類秘抄(十一面卷)(當館)、二月堂縁起、二月堂縁起(断簡)、東大寺縁起、二月堂曼荼羅(以上東大寺)、二月堂お水取り絵巻(個人)、紺紙銀字華嚴經(二月堂焼經)(當館)、二月堂修中過去帳、◎二月堂修中練行衆日記 卷第五・七・廿、◎六時之差帳、◎鏡(堂司鏡)、金銅柄香炉、◎香水杓、香水壺、二月堂練行衆盤、◎金銅鉢、鬼瓦(二月堂仏餉屋出土)、綠釉軒平瓦片(二月堂仏餉屋出土)、二彩陶器片(二月堂仏餉屋出土)、二彩水波文壇(二月堂仏餉屋出土)(以上東大寺)、綠釉水波文(二月堂付近出土)(個人)、墨書土器(二月堂仏餉屋出土)、貨錢(二月堂仏餉屋出土)(以上東大寺)

特別出陳 本館

◎藥師如來立像(唐招提寺金堂)

特別出陳 西新館

◎藥師三尊像(藥師寺講堂)

平常展 「仏教美術の名品」 本館・西新館

本館 1/4~

【彫刻】第1室 飛鳥～奈良時代の彫刻 ◎木造藥師如來立像(唐招提寺金堂)、◎脫活乾漆・木造梵天立像、◎乾漆・木造伝教脫菩薩立像(以上秋篠寺)、◎木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿彌如來坐像(西大寺)、◎銅造光背(二月堂光背)(東大寺、~1/28)、◎脫活乾漆舍利弗立像(十大弟子像のうち)(興福寺)、◎脫活乾漆目犍連立像(十大弟子像のうち)、◎脫活乾漆緊那羅立像(八部衆像のうち)(以上興福寺)、◎木造菩薩立像(金童寺)、◎銅造法華說相図(長谷寺)、銅造觀音菩薩立像(當館)、◎木造十一面觀音立像(藥師寺)、◎木造西大門額(東大寺)、◎鳳凰文壇、方形三尊壇仏(以上南法華寺)、川原寺裏山遺跡出土壇仏(明日香村)、伝橘寺出土壇仏、夏見廃寺出土壇仏、天華寺跡出土壇仏(以上當館)

第2・3室 平安・鎌倉時代の彫刻 ◎木造阿彌陀如來立像(裸形阿彌陀)(淨土寺)、◎木造十二神將立像(九軀)(東大寺)、◎木造行賀人坐像(法相六祖像のうち)(興福寺)、◎木造重源人坐像(淨土寺)、◎木造十一面觀音立像(元興寺)、◎木造千手觀音立像(千体觀音像のうち)(妙法院)、◎木造藥師如來立像(元興寺)、◎木造藥師如來坐像、木造如來立像(以上當館)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎木造十一面觀音立像(藥師寺)、◎木造聖觀音立像(觀心寺)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)、◎木造觀音菩薩立像(セゾン現代美術館)、木造菩薩立像(當館)

第4～6室 ガンダーラ・中国・韓国の彫刻 <ガンダーラ>石造如來立像、石造菩薩立像、ストゥッコ如來頭部、ストゥッコ如來坐像、ストゥッコ菩薩立像、ストゥッコアトラス像、石造貴婦人群像、石造仏伝図浮彫(提婆達多の暗殺失敗・涅槃)、石造仏伝図浮彫(舍利八分)(以上個人)、<中国>銅造仏三尊飾板、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、銅造力士立像、銅造諸尊仏龕(以上個人)、方形獨尊坐像壇仏、方形阿彌陀三尊壇仏、方形獨尊壇仏、小型獨尊壇仏(以上當館)、多宝塔壇仏(個人)、石造如來頭部(雲岡)、石造菩薩頭部(鞏県)、石造如來頭部(天龍山)、石造菩薩半跏像(以上個人)、◎乾漆力士立像(當館)、石造仏五尊碑像、石造仏立像、石造仏淨土碑群像、◎石造三尊仏龕(以上個人)、<朝鮮半島>銅造如來立像(光明寺)、銅造如來立像(當館)

第7～第13室 日本彫刻の諸相 木造十一面觀音立像(奈良・広瀬区)、◎木造觀音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面觀音立像(海住山寺)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)、◎木造伎樂面・力士、◎木造伎樂面・醉胡從、◎木造伎樂面・太孤父、◎木造伎樂面・治道、◎木造伎樂面・醉胡王(以上東大寺)、◎木造舞樂面・納曾利、◎木造舞樂面・新鳥蘇(以上春日大社)、◎木造舞樂面・散手、◎木造舞樂面・貴德、◎木造舞樂面・陵王(以上東大寺)、銅造釈迦如來立像(當館)、◎銅造誕生釈迦如來立像(悟真寺)、◎銅造菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)、銅造觀音菩薩立像(當館)、◎銅造觀音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、銅製押出仏(當館)、木造阿彌陀如來立像(個人)、木造阿彌陀如來立像(個人)、木造阿彌陀如來立像(個人)、木造阿彌陀如來立像(峰定寺)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(春覺寺)、◎木造飛天像(西金堂本尊光背附属)(興福寺)、木造南無仏太子立像(西大寺)、◎木造聖德太子立像(成福寺)、◎木造大黒天立像(興福寺)、◎木造十二神將立像(辰神・未神)(室生寺)、木造愛染明王坐像、木造如意輪觀音坐像、木造地藏菩薩立像、木造十一面觀音立像(以上當館)、木造藏王權現立像(個人)、◎銅造藏王權現立像(大峰山寺)、木造伊豆山權現立像(當館)、木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、◎木造八幡三神坐像(藥師寺)、木造男女神像、◎木造狛犬(以上當館)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、◎木造增長天立像(稱名寺)、◎木造增長天立像(法明寺)、木造毘沙門天立像(當館)、◎板彌十二神將立像(波夷羅・珊底羅)(興福寺)、木造大日如來坐像(西城戸町)、木造仏頭(松尾寺)、木造菩薩頭(松尾寺)、木造阿彌陀如來坐像、木造地藏・龍樹菩薩坐像(以上當館)

西新館 1/4~

【絵画】 1/4～1/28 ◎釈迦三尊像(仁王会本尊)(西大寺)、◎普賢菩薩像、◎白衣觀音像(以上當館)、◎地藏菩薩像



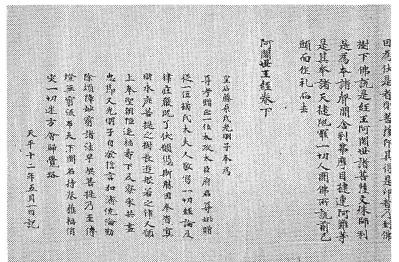
◎木造地藏菩薩立像
(東大寺)

(地藏院)、◎虛空藏菩薩像(當館)、◎文殊菩薩像(宝寿院)、◎十二天像(地天・梵天)(西大寺)、十六羅漢像(淨土寺)、◎一遍聖絵(第六卷、第一段)(清淨光寺・歡喜光寺)、◎遊行上人絵(第九卷、第一段)(光明寺)、伊勢両宮曼荼羅(正暦寺)、◎法華經宝塔曼荼羅(第一・二・三幅)(立本寺)、◎華嚴五十五所絵(勝熱婆羅門・安住地神・遍友童子師)(東大寺)、◎辟邪絵(毘沙門天)(當館)、◎十王図(陸信忠筆)(當館)、◎阿彌陀三尊及童子像(法華寺)、1/30～2/25 ◎仏涅槃図(淨土寺)、◎釈迦如來像(持鉢釈迦)(西教寺)、釈迦三尊十六善神像(西大寺)、十六羅漢像(跋陀羅尊者)(當館)、羅漢像(陸仲淵筆)(能満院)、◎五百羅漢像(大德寺)、◎法華經宝塔曼荼羅(第四・五幅)(立本寺)、◎胎藏図像、両界曼荼羅(以上當館)、◎八大仏頂曼荼羅(園城寺)、◎千手觀音像・木造觀音立像(以上當館)、◎如意輪觀音像(宝嚴寺)、◎十一面觀音像(金心寺)、不空羂索觀音四天王像(一乘寺)、◎十二天像(當館)、2/27～4/1 ◎一字金輪曼荼羅(南法華寺)、千手觀音二十八部衆像(當館)、◎十二天像(毘沙門天・月天)(西大寺)、◎十王図(陸信忠筆)(當館)、◎阿彌陀聖衆來迎図(松尾寺)、弥勒來迎図(個人)、◎九品來迎図(上品中下生)(龍上寺)、◎法然上人絵(弘願本、第一段)(知恩院)、◎一遍聖絵(第四卷、第三段)(清淨光寺・歡喜光寺)、◎俱舍曼荼羅(東大寺)、◎天台高僧像(智顥・円仁)(一乘寺)、◎真言八祖像(金剛智)(神護寺)、◎興正菩薩像(新大仏寺)、◎親鸞聖人像、◎安東円惠像、◎大道一以像(以上當館)、◎聖德太子絵伝(橘寺)



◎十二天像(梵天)(西大寺)

【書跡】 1/4～1/28 ◎福州温州台州求法目録、◎越州都督府過所・尚書省司門過所、◎円珍度縁并公驗、◎伝教大師略伝(以上園城寺)、◎造東大寺司請經牒、阿闍世王経(五月一日経)(以上當館)、別訳雜阿含經卷第十(五月十一日経)(宝嚴寺)、般若心経(隅寺心経)(海龍王寺)、◎大毘盧遮那成仏神変加持経(吉備由利願経)(西大寺)、◎弥沙塞羯磨本(東大寺)紙金銀交書金剛頂經瑜伽十八会指歸(中尊寺経)、紺紙金字大智度論卷第七十四(神護寺経)(以上當館)、1/30～2/25 ◎大般若経(長屋王願経)(瑞光寺)、大般若経卷第百四十六(施福寺)、大悲経(五月一日経)(正暦寺)、◎賢愚経(大聖武)(東大寺)◎增一阿含經卷第三十(善光朱印経)(正暦寺)、◎金光明最勝王経(百濟豐虫願経)(西大寺)、◎大般若経(魚養経)(藥師寺)、大方等大集經菩薩念仏三昧分卷第九(当館)、◎聖德太子伝暦(本願寺)、雜筆集(当館)、2/27～4/1 弘法大師二十五箇条遺告(能満院)、悉曇字母釈、◎弘福寺牒並大和国判、海龍王経、瑜伽師地論卷第八十九(舍人足願経)(以上當館)、大般若経卷第四百七十一(談山神社)、大威德陀羅尼経(法隆寺一切経)(当館)、◎紫紙金字法華経(乘法寺)、◎紫紙金字金光明最勝王経卷第二(後宇多天皇願経)(当館)、◎法華経(長谷寺)、大般若経卷第百五十七(東大寺八幡経)(当館)



◎阿闍世王経(当館)

【工芸】 金銅輪宝羯磨文透彫幡(個人)、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、牛皮華鬘(当館)、◎金銅種子華鬘、散蓮華蝶文螺鈿卓、一面器及び水瓶、金山寺香炉、金山寺香炉(以上当館)、金銅柄香炉(高山寺)、◎銅三具足(聖衆來迎寺)、王子形水瓶(承盤付き)、王子形水瓶、王子形水瓶、王子形水瓶(かぶら形)、仙蓋形水瓶、布薩形水瓶、◎銅梵鐘(以上当館)、銅梵鐘(海住山寺)、銅梵鐘(日鮮混淆形式)(当館)、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、◎紙胎漆塗彩絵華鬘(万徳寺)、竹製華鬘(性海寺)、◎金銅密教法具(巖島神社)、金銅一面器(西大寺)、◎宝相華文如意(当館)、◎銅鏡(円福寺)、銅三鈷杵(古式)、金銅獨鈷杵(以上当館)、金銅三鈷杵(個人)、金銅五鈷杵、金銅五鈷四大明王鉢(当館)、◎金銅四天王鉢(弥谷寺)、銅三昧耶鉢(金峯山寺)、金銅五鈷鉢、金銅金剛盤、金銅輪宝、金銅羯磨(以上当館)、ほか正倉院宝物模造



◎金銅四天王鉢
(弥谷寺)

【考古】 飛鳥・白鳳の古瓦(法隆寺ほか)、瓦塔(静岡・三ヶ日町出土)、◎石製九輪(奈良・山村廃寺出土)、円説寺)、◎粟原寺伏鉢(談山神社)、◎東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎元興寺五重塔鎮壇具(元興寺)、靈安寺塔跡出土鎮壇具、◎佐井寺僧道墓出土品、◎出雲荻杼古墓出土品、銅經筒(平治元年銘)、金銅宝幢形經筒、金銅厨子形經筒(以上当館)、◎朝熊山經塚遺物(三重・経ヶ峯経塚出土)(金剛院)、◎銅經筒・滑石外筒(伝福岡県出土)、經塚遺物(銅經筒、陶製外筒片、鉄製大刀、和鏡、青白磁合子等)(以上当館)、◎藤原道長願経(奈良・金峯山経塚出土)(金峰神社)、紙本朱書法華経(伝大分県出土)、◎銅板経(大分・長安寺経塚出土)(長安寺)、瓦経(福岡・飯盛山経塚出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)、泥塔経(鳥取・智積寺経塚出土)(以上当館)



◎粟原寺伏鉢(談山神社)

◎=国宝 ◎=重要文化財 出陳品は都合により一部変更する場合があります。



奈良博での半年

○奈良国立博物館への異動の内示があり、引継に奈良を訪問した平成12年6月下旬のある日、その日は「雨の日」でした。用務が終わって、奈良女子大出身の辛島美登里が歌う「雨の日」のモデルとなった矢田寺に行き、酔うように咲く紫陽花を見てきました。この矢田寺の仏像の展示（「矢田寺の仏像展」）が1月4日から2月4日まで奈良博で開催されるのは、なによりもうれしいことです。お寺で見る仏像と奈良博で見る仏像は、どこかしら違うように思います。奈良博の本館には、古今東西の仏像が集まっておられるからでしょうか。奈良博の本館に入ると、仏像のまなざしを感じ、会話されているお声が聞こえてくるようです。慈悲深い表情のお顔から、喜び・悲しみ・怒り、あらゆる表情があります。その表情の豊かさと深さに、いつも新しい驚きを感じます。そういう奈良博、可愛い鹿がいる奈良博は、私の大好きな場所です。それであるが故に、一人でも多くの方に奈良博の展示を、いい環境で見ていただけるようにしたいと切に思っております。



矢田寺の紫陽花 (撮影: 杉長)

○奈良博に勤務して、半年が過ぎました。この1年間、なにかにつけ「20世紀最後の・・・」と言われ、全てが変わっていくかのようでした。しかしながら、私達とその暮らしの全てが変わった訳ではありませんでした。奈良博も、平成13年度から独立行政法人国立博物館が運営する博物館になりますが、この場所で、お客様をお迎えすることは、今と全く同じです。博物館としての事業を今後もきちんと実施しながら、同時に、お客様の立場に一層立った運営を行うこと。奈良博に期待されていることは、極めて明快です。独立行政法人になることが決まってから、国立の博物館や美術館の関係者が集う会合では、参加者から「お客様」という言葉が自然に出るようになりました。民間企業の方は、「当たり前のこと」だと思われるでしょう。でも、国立博物館では、観客やギャラリーという言葉は別にして、お客様という言葉は、どこかしら違和感がありました。奈良博が時代の変化に対応して、この「当たり前のこと」をどこまで会得できるか。幸い、奈良博で実施しているアンケートには、様々なご意見をお寄せいただいております。これをじっくり点検し、博物館の運営の改善に大いに役立てたいと思いますので、今後もご意見をお寄せくださいますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

○さて、どの世界にも、その世界ではごく普通の「当たり前のこと」があると思います。奈良博にもあります。奈良博で当たり前のことだが、世間では必ずしもそうではないことがあるかもしれません。奈良博の活動では、正倉院事務所の方々と協力して行う正倉院展が有名ですが、その準備作業に途中から参加してみて、この頃のキー・ワードのひとつである「効率化」とは、かなり異質な面があるとも感じました。8世紀からずっと伝えられてきた正倉院宝物を展示するために、展示物のセレクト、調査・点検、展示環境の整備、展示などの活動は、半年以上の時間をかけて行われております。展示物の調査・点検は、殊の外、慎重さ・丁寧さが求められ、時間を要します。情報技術を使って、1秒でも早く、1円でも安くという時代の流れの本流とはなかなか結びつかない、地道な研究に裏付けられた技が要求されます。これは、21世紀はおろか、もっと先の時代まで宝物を良好な状態で継承することを考えるならば、「当たり前のこと」なのです。奈良博にとっての当たり前のことだが、世間では必ずしもそうではないことを頭の隅に置いて、奈良博の当たり前のことが何故そうなのかを常に考えながら、博物館を運営し、何故そうなのかについて、国民の皆さんへの「説明責任」を果たしていくことが重要な課題だと思う毎日です。



本館展示室

(奈良国立博物館次長 杉長 敬治)

◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

1月10日(水) 光明皇后と写経 〈生誕1300年を記念して〉	資料管理研究室長 西山 厚
2月14日(水) 仏塔について	考古室長 井口 喜晴
3月14日(水) お水取りの魅力 〈お水取り1250回を記念して〉	資料管理研究室長 西山 厚

いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「鎌倉時代の歴史と美術」をテーマに勉強しています。

1月13日(土) さまざまな塔のかたち	考古室長 井口 喜晴
2月10日(土) 「鎌倉時代の歴史と美術」のまとめ	学習普及専門官 宮田 康和

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでもかまいません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料です。定員は200名(先着順)です。

◆奈良国立博物館平成13年度友の会募集について

4月から実施される国立博物館の独立行政法人化移行に伴う、「友の会」の制度を改組する予定です。詳細未定のため、3月以降に、当館企画普及室にお問い合わせください。

◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室で行っています。

解説は、開館日の10:00～ 11:00～ 14:00～ 15:00～ の4回(約30分)と、東大寺や法隆寺など、寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組合せることができます。予約をすれば講堂または学習室でボランティアが画面に合わせて解説します。お問合せは学習普及専門官(電話0742-22-7008)まで。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。ただし順延あり)

観覧料金 每月第2・4土曜日は、小・中学生無料。1月7日・2月3日・3月12日は無料観覧日

平		大人	高・大生	小・中生
常	一般	420円	130円	70円
展	団体	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上。特別陳列は平常展料金でご覧いただけます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 TEL0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレfonサービス0742-22-3331
ホームページ〈URL〉<http://www.narahaku.go.jp/>

奈良国立博物館